

第2回 瀬戸市教育振興基本計画検討会の結果

開催日時	令和8年8月4日（火）午前10時～午前11時30分	
場所	瀬戸市役所 西庁舎2階 交流センター	
出席者	委員	伊澤委員長、岡島副委員長、柳田委員、此下委員、加藤（弓）委員、下方委員、福岡委員、野中委員、井上委員、八鳥委員
	事務局	加藤教育長 【教育政策課】 荻原課長、國松専門員兼指導主事、松浦課長補佐、峯藤主任
	関係課	【学校教育課】 伊藤主幹兼管理指導主事 【図書館】 加藤主査 【コミュニティ推進課】 杉江課長 【スポーツ課】 川合課長補佐
	傍聴者	なし

【事務局から報告】

- ・第1回会議録の配布
ホームページ等で公開。
- ・今後のスケジュール
本日第2回検討会にて計画（案）及び子どもからの意見聴取の結果速報を提示。
9月8日開催予定の第3回検討会にて、意見反映後の計画（案）の提示とパブリックコメント概要説明。10月13日～11月13日にパブリックコメント実施。1月に最終案を作成する予定。
- ・欠席連絡
加藤（絹）委員が欠席。

1 議事
検討事項
○瀬戸市教育振興基本計画2031（案）について・・・資料1

【事務局から説明】

- ・第1章（計画策定の趣旨等）
本市の児童生徒数は減少傾向だが、0歳児時点と入学時を比較すると100～200人

程度増加する傾向があった。

令和 8 年度時点で日本語指導が必要な児童生徒が 16 言語に及ぶ。

小中一貫校化による適正規模・適正配置を実施してきた。

- ・第 2 章（基本理念等）

第 1 次、第 2 次計画で掲げてきた基本理念を継承する。

「目指す学びの姿」を整理し、5 つの基本方針を設定した。

- ・第 3 章（11 の取組の方向性等）

11 の項目について施策内容を箇条書きで詳述した

- ・第 4 章（計画の進行管理・連携等）

点検評価に基づく PDCA サイクルのもとで計画の進行管理を実施する。

市長部局の関係部署と連携して取組を推進する。

【委員】

- ・ 10 ページ目の「第 2 次計画での主な課題と視点」についてですが、例えば「夢と希望を持った子どもの育成」などが、どのような観点から抽出された課題なのかを読み取りにくいいため、補足していただけますか。

【事務局】

- ・ 現在進行中の第 2 次瀬戸市教育アクションプランの進行管理において、委員の皆様からいただいた評価や点検時のご指摘、会議・アンケート等で出てきた声を抽出しています。事務局として課題認識が大きい不登校、特別支援、日本語指導等に加え、点検評価で「夢や希望を持った子ども」等に関する課題の声が上がっていたため記載しています。

【委員】

- ・ 本計画は、現在の教育制度や社会の仕組み（学年制度、教員、児童生徒数、特別支援学校と通常学級の区分、入試制度など）を前提とし、そこから生じた課題に対応・解決するための取組を推進する計画であると受け止めています。
- ・ キャリア教育やコミュニティ・スクールについて、私自身は当初批判的でしたが、その意義は理解しています。職場体験をした中学生が「働く大人の真摯な姿勢から学んだ」と感想を述べているように、キャリア教育は大人が働く喜びや真摯に生きる大切さを子どもに伝える機会を失った現代において、大人側の意識を取り戻すリハビリのような側面もあると感じています。挨拶運動や地域のボランティア活動も同様に、参加する大人自身の学びや地域づくりに繋がっています。
- ・ 本計画を学校教育だけでなく、社会教育、生涯学習、地域づくりの観点から捉えることが大事であると思います。また、社会モデルの立場に立って考えていくことが必要であると考えています。

【委員】

- ・ 現在の学校現場では、夏休みの読書感想文を児童生徒が「生成 AI」で作成してくることへの対応について、教員間でも議論になっています。
- ・ ICT に関する研修でも「生成 AI」をどのように効果的な学びにつなげるかが大きなテーマとなっています。

- ・2031 年を見据えた本計画の文章の中にも、「生成 AI」という言葉や活用の視点が入るとよいのではないかと思います。

【委員長】

- ・私の勤める大学で大学生の発表などを聞いていても、生成 AI が使われていました。生成 AI を使うことは構わないのですが、生成 AI に依存するのではなく、生成 AI をどう使いこなすかというのは、普段の問いを投げかける力とか考える力があってこそだと思います。
- ・今、大学でこれだけ使われるようになっていくということは、これから高校、中学、小学校と使われるようになるでしょう。そういう生成 AI 自体も本格的に使われる時代になっているということが、文章の中にもあっていいかと思います。

【委員】

- ・8 ページで、小学校入学時の児童数が 0 歳児時点より入学時で 100 人増えているという話があり驚きました。7 ページの 1 の冒頭に、瀬戸市においての傾向として 100 人以上増えていることを追記されるとよいのではないかと思います。可能であれば 7 ページの棒グラフに全国の減り具合が折れ線グラフで重なっていたりすると、瀬戸はなんとか踏みとどまっていることが分かるかなと思いました。
- ・17 ページ以降の取り組みの指標について、目指す方向が横ばいのものがいくつかあります。横ばいを期待する指標であればあまり書く必要もないのかなと思いましたので、あえて書かないか、矢印を書かないか工夫するといったのかなと思いました。横ばいのものを削除して数が減ってしまうのであれば、巻末にまとめる方法もあるのかなと思いました。
- ・33 ページ、34 ページの読書に親しむ環境づくりについて、もう少し手厚く記載ができるとよいのではと思いました。34 ページの空きスペースに地域図書館の場所を図示したり、地域図書館の活用について追記するとよいのではと思います。読書の大切さについてコラムのようなスペースを設けるとか、アンケート結果から拾えることがあれば記載するのもいいと思います。

【委員長】

- ・7 ページ、8 ページの児童数のところは、瀬戸が全国の中でどれぐらいの位置づけになるのか分かる比較の視点、私もおっしゃるとおりだと思います。
- ・17 ページ以降の指標の矢印ですが、事務局で何か意図はありますか。

【事務局】

- ・「ある程度の数字になっているので、これを取り組みで維持していく」というような意図で掲載しておりますけれども、先ほどの委員のご意見も含めて、もう一回見直したいと思います

【委員長】

- ・現状維持というニュアンスが伝わるような読み方になるよう見直していただければと思います。
- ・33 ページの地域図書館の件も周知も含めてコラムスペースを使う等、瀬戸独自の計画だと伝わるような表現を考えていただきたいです。瀬戸市民が読んで現状を踏まえた取り組みだと見えるところを意識して計画を作っていきたいと思いま

す。

【委員】

- ・ 7、8 ページに児童生徒数や外国人児童生徒数の推移がありますが、25 ページの「誰一人取り残されない教育の推進」のところでも通級指導対象や特別支援学級等の児童生徒が増加しているとあります。障害のある児童生徒数についても増加している状況ですので、障害のある児童生徒数の状況もグラフ等で表現すると非常に分かりやすく、市民の方々にも理解していただけるのではないかと思います。

【委員長】

- ・ 今回の計画は「多様性」という言葉が随所で使われておりますので、障害のある児童生徒の数の変化なども記載してはという提案でした。

【委員】

- ・ 今朝の朝刊に、最近、小中学生の勉強時間が1時間以上で少し減り、逆にSNS、動画、AI に関することを見る時間が3時間以上とすごく増えたと載っていました。教育振興基本計画の中に、SNS や動画や AI という文字が出てこないのも、そちらを見る子どもが多くなっているのであれば、そちらも活用したらどうかと思いました。
- ・ 私の体験です。3 年前、ブラジル系の 14 歳の外国人の子どもの保護者担当になりました。家に行っても電気も水も通っておらず外の水でシャワーを浴びていました。食べるものがないということで、そういう外国人の子どもが、まだ当時は結構いました。

【委員長】

- ・ SNS などの学習環境に与える影響についての危機意識や、外国人のお子さんの暮らしを守る・見守っていく環境についてご意見をいただきました。

【委員】

- ・ 基本理念の「我が子を瀬戸で育ててよかった」の「我が子」や、「瀬戸のすべての子どもたち」の「たち」を削除すると、文章のリズムや文字数が揃ってよいのではないかなと思いました。
- ・ 瀬戸 PTA の会議において、にじの丘学園でリーディングスキルテストを始めたと言いました。読解力を鍛えるために開発したテストがあるらしく、読解力も重要だと思っています。「取組 1-(4) 情報活用能力の育成」の中なのか、「読解力」という言葉をどこかに入れてもよいと思います。

【委員】

- ・ 11 ページと 12 ページの基本理念と目指す学びの姿について、学校運営協議会が全市に設置されましたので、市としての方向性をまずスタート時に委員の皆様にお知らせすることが重要かなと思っています。瀬戸市としての目指す方向も合わせて伝えられると、瀬戸市全体が同じ方向を向くのかなと感じています。
- ・ 読書に関することで、小学校で読み聞かせを行っています、子どもたちが集中して見てくれるのでとても重要な時間だと感じています。授業内に入ることがあ

るのですが、今調べ学習がタブレットに置き換わっている部分があり、本を実際に手に取って調べる時間ももう少し残しておいてもいいのかなと思っています。本が足りていない実態がありますので、授業で必要な本がもう少し充実するといいなと感じています。

【委員長】

- ・読み聞かせの活動など紙の本が持つ特長、思考が広がるという強みがありますので、図書の充実というのも大事だということですね。

【委員】

- ・21、22 ページに、キャリア教育で大事なことがまとめられていて思ったのですが、系統的なカリキュラムの構築が求められている点について、学校がどんな流れでやっていきたいのかというコミュニケーションが取れていかないと難しいのかなと思います。もう少し全体を見渡してできることが増えていくといいなと感じています。
- ・22 ページに「授業や学校行事での体験活動を通じて、自分の視野が広がったり、心を動かされたりした」という指標があります。講座直後は数値が伸びますが、二十歳の集いではほとんど覚えていないのが実際のところですね。長期的にどのように子どもたちに働きかけていくかによって浸透度が変わってくると感じているので、系統的なカリキュラムを軸にしながら、進捗・指標を測る時も工夫しないと求めている数値は出にくいかなと感じています。
- ・キャリアパスポートについて、せっかく蓄積しているのであれば、通知表と一緒に保護者が見る機会があると、指標の3つ目にもつながるのでよいと思いました。
- ・24 ページの「情報活用能力の育成」の指標の1つ目について、情報をまとめるのはAI でできてしまうので、リアルにアンケートを取るとか自分で集めた情報をグラフにするという前の部分が促進されるといいなと思います。
- ・25 ページの「誰一人取り残されない教育の推進」で、いろいろな学級や特性、外国籍の子ども、せと“ここ” ほんとルームの中でのキャリア教育的な活動など、幅広いところへ探究的な学びを含めた支援ができるといいなと思っています。

【委員長】

- ・データの集め方や作られ方に着目すること、マイノリティ向けのキャリアサポートの必要性など、非常に重要なご指摘をいただきました。

【副委員長】

- ・読書の件で、不登校の子たちが学校内で居場所を見つけられるような、図書館が居場所となり得るような要素が入るといいと思いました。
- ・遠隔授業について、県立高校で不登校や病気療養中の生徒に対し遠隔授業を実施した事例がありますので、小中学校でもリアルタイムでつなぐインクルーシブ教育の要素が入ると他市町に先行して取り組めるのではないかと感じました。
- ・6 ページの「化学変化」という表現について、理科の実験のようで違和感があり言葉が浮いている印象を受けました。

- ・15、16 ページの基本方針の表記について、基本方針 2 のみ「明日また来たいと思える」と子どもの視点になっており、他は大人の視点ですので統一されるとより親しみやすくなるのではないかと思います。

【委員】

- ・用語解説の置き方についてですが、愛知県の計画では、巻末にまとめた方がスマートで見やすいという結論になりました。
- ・認知されている「スクールカウンセラー」は解説不要ではないかという点、「インクルーシブ教育」は「インクルーシブ教育システム」として解説すべき点など、整えてもらえればと思います。

【委員】

- ・言葉の選び方について、「読み聞かせ」も「読み語り」や「お話し会」という表現が使われることがあります。また、「支援」という言葉など一つ一つの言葉が教育理念に沿っているか、実現のハードルになっていないかを次回までに考えてまとめたいと思います。

【委員】

- ・市の適応指導教室の記載がありませんが、確認をお願いします。

【事務局】

- ・市の適応指導教室という言葉自体を現在改める考えがあり、その言葉では記載しないこととしています。

○子どもからの意見聴取の結果について・・・資料 2

【事務局から説明】

- ・6 月末から抽出校で実施したアンケートの速報報告（自由記載 4 項目）。
- ・学校生活がより良いものとなるような提案や意見について、「授業・学習」に関する意見が 17.7%で最多。次いで「給食」12.8%、「通学・安全」10.6%。「その他」に服装、スマホ、今のままでいい等の意見。
- ・読書のどんなところが好きかについて、「楽しい」「興味がある」「学習効果がある」などポジティブな回答が 43.8%。・好きでない理由については、「苦手」「他の活動を優先」等の理由。
- ・大人になってからも「学び続けたい」、「活動し続けたいこと」について、現在の学習・活動を続けたいが 34.9%。
- ・性別・国籍・障害に関係なくみんなが一緒に生活するための提案意見について、「意見なし」、「その他」が半数程度だが、「何も気にしないで生活すればいい」といった意見も含む。
- ・今後、AI で抽出データの精査を行い、計画書の 17 ページ以降の余白等に子どもの意見として掲載予定。

【委員】

- ・その他の意見が一番ボリュームが出ないように AI に指示を出して分析するとよい

と思います。

【委員長】

- ・その他の意見に大事なことが含まれている感じがします。そのあたりが分析されると見えてくるのが変わるのかなと思います。

【委員】

- ・アンケートを単発で終わらず、5年計画の中間等で定点観測として継続して、見直していけるとよいと思いました。
- ・子どもたちを「サービスを受ける側」とせず、「自分たちでまちや学校を作っていく」という主体性・当事者意識を持たせるためにも、こういった意見聴取の機会や子どもの意見の掲載は非常に意義があると感じます。

【委員長】

- ・前回も議論に出た起業家精神、アントレプレナーシップとは会社を作ることではなく、大事な要素の一つは主体性なので、子ども自身が一緒に参加して何かをつくる、サービスをする側、受ける側ではなく相互に触発し合うその主体性が、本来のアントレプレナーシップだと思います。

【委員】

- ・「アンケートに書いても何も変わらない」と思わせないよう、どのように意見を受け止めて施策に反映したかを分かりやすく伝える工夫、子どもへのフィードバックが大事だと思います。例えば計画書内の要所要所にイラストや吹き出しで子どもの意見を掲載などすると、意見を反映していることが伝わりやすいと思います。

2 その他

- ・次回検討会の日程について
日時：9月8日（火）午前10時00分～
場所：瀬戸市役所 4階 大会議室